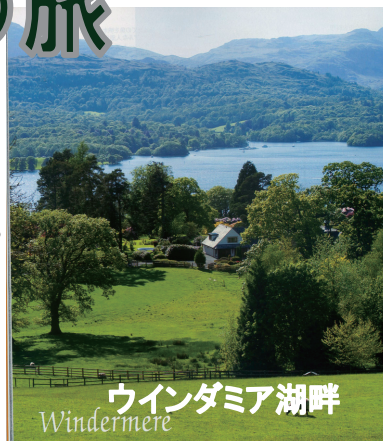


海外研修旅行のご案内

イギリス湖水地方の旅

テーマ イギリス湖水地方は百年前「ナショナル・トラスト運動」が始まったところ。絵本『ピーター・ラビット』の作者ビアトリクス・ポターが土地を買い取り、保全にゆだねたことは有名です。活動は今も受け継がれ、イギリス全土に広がっています。歴史的建築物や自然景観を守るため、「持続可能な発展」を目指している湖水地方を訪ねます。また、都市部で行われている森林・大公園・緑の道・農地・水辺などに緑を増やす地域再生活動や高齢化社会での生き方など見聞を広めます。



ウインダミア湖畔
Windermere

■日程 平成22年 6月 20日(日)～ 27日(日) 7泊8日

■旅費 437,000円 (エコミークラス・スーパーホテル2名1室)

■日程 (予定)

1	6月20日	関西空港発 ロンドン着	11:25 19:20		エールフランス航空<パリ乗り継ぎ> 時差-8時間 ロンドン泊	昼 機内 夕 軽食
2	6月21日	ウッドストックへ ストラットフォード・アポン・エイ ボン		専用車	世界遺産ブレナム宮殿 シェイクスピア生誕の地 コッツウォルズ地方泊	朝 H 昼 R 夕 H
3	6月22日	コッツウォルズ地方		専用車	バートン・オン・ザ・ウオーター(コッツウォルズのベニスといわれている)散策、パイプリー(英国でもっとも美しい村と賞賛されている)ヒドコットマナーガーデン(ナショナル・トラスト管理の庭園) コッツウォルズ地方泊	朝 H 昼 R 夕 H
4	6月23日	チェスターへ 午後 湖水地方へ		専用車	中世の面影残す街・チェスターの城壁や商店街(ザ・ロウズ)、チ ェスター大聖堂 湖水地方泊	朝 H 昼 R 夕 H
5	6月24日	湖水地方		専用車	視察研修プログラム/ナショナル・トラスト活動にふれる ウインダミア湖遊覧、蒸気機関車乗車、ホークスヘッドの村散 策、『ピーターラビット』の作者ビアトリクス・ポターの住んでいたヒ ルトップなど訪ねます。美しい湖畔を歩きましょう。 湖水地方泊	朝 H 昼 R 夕 H
6	6月25日	エディンバラへ		専用車	世界遺産エディンバラ市内観光、エディンバラ城 エディンバラ泊	朝 H 昼 R 夕 H
7	6月26日	エディンバラ発 パリ発	09:10 13:50		ホテルから空港へ エールフランス航空<パリ乗り継ぎ> 帰国の途へ 機中泊	朝 H 昼 一 夕 機内
8	6月27日	関西空港着	08:25		お疲れ様でした。	朝 機内

* 旅行企画・実施 (株)JTB西日本京都四条支店 担当/島田克己 TEL 075-223-5673

編集後記

「てるびっと第16号」をお届けいたします。
昨夏、世界自然遺産知床を訪ね、世界遺産に登録されるハードルの高さや地球温暖化の影響は「流水」にも影響している現状を学びました。冷暖房温度を1℃調整することで、年間33kgのCO2が削減できます。省エネ・節電を实践しましょう。

「かがみ」詩・まど・みちお

この地球のうえには ほうぼうに置いてあります
海や 川や 湖水(みずうみ)など
さまざまな美しいかがみが
それが そこに置いてある……
ということよりも相応しいことは
この世の中にないかのように
それは 私たち 生き物だけのためにでしょうか
山や 雲 太陽や 星たちでさえ
じぶんの顔を見たくることが
あるからではないでしょうか



発行 2010・3

海外研修KYOのあけぼの会 入会案内

女性関係相互のネットワークづくり
や国際交流をすすめようと
1、人とのつながりを大切にして、
2、実際に行動し、3、まわりの多くの
人に伝えることを柱に活動しています。

主な活動内容

- ・資質向上のための研修会
- ・国内外への研修旅行
- ・機関紙「てるびっと」の発行
- ・KYOのあけぼのフェスティバルに参画

年会費 2,000円

てるびっと

No.16
2010.3

京都府海外研修KYOのあけぼの会

ごあいさつ



海外研修 KYO のあけぼの会
会長 田中 田鶴子

会員の皆様におかれましては、ご健勝にてご活躍のことと存じます。
日頃より海外研修 KYO のあけぼの会の活動にご理解とご協力を賜り感謝いたしております。
さて、昨年は「インドネシア・ジョグジャカルタ特別区」を訪問する旅を計画しておりましたが、新型インフルエンザの影響により急遽国内研修に変更し、世界自然遺産知床を訪ね地球温暖化対策について学ぶ研修といたしました。

京都府国際課の方々には、現地と私達のパイプ役としてお世話になりましたことを深く感謝いたしております。結果的に、訪問することは出来ませんでした。ジョグジャカルタと京都府との関係について、準備の段階で学ばせていただけましたことは、今後の私達の活動において深い意味を持つものと確信いたしております。本当にありがとうございました。

また、今年10月1日～10月3日には、日本女性会議が国立京都国際会館を会場に「ひとりひとりが輝く、色彩あふれる世界へ」をテーマに開催されます。日本女性会議とは、男女共同

参画社会の実現に向けた課題の解決策を探るとともに、参加者相互の交流の促進や情報のネットワーク化を図ることを目的に開催される全国規模の会議です。京都大会の特色のひとつに「若者たちの男女共同参画への意識の高揚」があります。京都市が平成18年にアンケート調査された結果では、62.1%の人が学校教育の場においては、「男女ともに平等である」と考えているそうです。

しかしながら、「雇用の機会」「賃金昇格」「社会の習慣やしきたり」などでは不平等感を持っている人が多いようで、若者の間では「男女平等」が根付いている一方で社会に出るとまだまだ平等とは言い難い現状があるようです。

今大会では、世代を超えた人々の連携と融合により男女共同参画推進のための新たなネットワークと活動が展開することを期待いたします。

どうか、会員の皆様のご参加はもちろんのこと京都の女性のエンパワーメントが発揮できますことを願っております。

最後になりましたが、今年度の活動にどうか皆様のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。



2009年度総会・研修会

日時:平成21年4月22日(水)11:00~14:30 場所:京大会館

総会

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 来賓紹介
- 4 来賓祝辞
- 5 議長選出
- 6 議事
 - ①2008年度事業報告
 - ②2008年度決算報告
 - ③2008年度監査報告
 - ④2009年度事業(案)審議
 - ⑤2009年度予算(案)審議
 - ⑥その他



上・総会風景

昼食風景

研修会

「男女共同参画推進
～次のステップにむけて～」
講師 京都大学副学長 大西珠枝先生

<昼食 京大 レストラン ラ・トゥール>

表題「てるびつと」は前京都府知事 荒巻禎一様の直筆で、インドネシア語(京都府友好国)で「あけぼの」の意味です。
京都府の花「しだれざくら」「嵯峨菊」木「北山杉」鳥「オオミズナギドリ」を 戸塚フランス刺繍で表したものです。



あけぼのフェスタ2009に参加して 奥谷 こぶき

オープニングセレモニーの後、海外研ワークショップにおじゃましました。
龍谷大学教授の増田先生の温暖化についてのご講演をお聴きし、ぬるま湯につかっているような生活をしている私に何が大切かを気づかせていただきました。
自分の心がけ次第で省エネができるのです。こういう機会があったから、自分の生活を見直すことができました。小さなことですが、この冬我が家ではホームコタツを通電せず、2ℓのペットボトル2本にストーブで沸いたお湯を入れ、片方のみになったソックスをペットボトルにかぶせてコタツの役割には十分の暖かさです。ほんの少しのエコですが少しずつ生活の質を変えていかななくては、と気づいたワークショップでした。知床の動物植物花たちも元気に育ってほしいです。

コンクリート社会から木の社会へ 一瀬 裕子

この度 農林水産省から森林・林業再生プランが公表されました。
「みどりは地球を救う」「森の恵みを暮らしにいかす」「安心・安全 環境にやさしい」そんなすばらしい言葉がどのように展開するのか、それは私たちに課せられた問題として立ちはだかるなか、私は山間部の材木商へ嫁ぎ、特に林業問題については関心が深く、女性の林業研究会を昭和63年に発足し、現在に至っています。

山の源には水があり、水は生命の源です。豊かな自然を未来に残すには、水を溜め空気を清め森林を保全することが大事なのです。
ところが現状としては、外材のコスト安により、内地材の需要が低下する経済低迷による山離れ、日本の山々が荒れ放題にすすむなか、いかに内地材をいかすことができるか様々な角度から国をあげ、林業に携わる人達によって取り組みがなされています。

その一つとして木質資源(樹木加工製品燃料)“ペレット”を京北の地で生産することになりました。私の家は傍ら北山杉の磨丸太をアピールする意味もあって丸木のままのペンションを建て、昭和60年より開業していますが、この冬にペレットストーブを取り入れました。木を燃料として石炭や石油を減らす、間伐材の木を切ることを重視する、山を生かすも殺すも手入れ次第、木材として使えない枝や細い幹、曲材等を破碎し、木の粉にした後、熱を加えて乾燥、圧縮して円筒状に固めたものが「ペレット」なのです。赤い炎とパチパチ火花が見えてとっても気持ちのよい暖かさで素晴らしいです。見学にお越し下さい。

元気で生き生きした森林は私たちの生活にたくさんの恩恵を与えてくれるだけでなく、二酸化炭素をどんどん吸収する緑のタンクなのです。温暖化の地球を救うためにも私たちがこうした仕組みづくりを理解し、支援することが重要なのです。エコロジーな木材燃料をよろしくお願ひします。



第21回KYOのあけぼのフェスティバル2009

海外研修KYOのあけぼの会ワークショッププログラム

日時 平成21年10月18日 13:30~15:30

場所 京都テルサ **参加者** 90名

主催 海外研修KYOのあけぼの会
京都商工会議所女性会



1 開会挨拶:海外研修KYOのあけぼの会会長 田中 田鶴子

2 DVD上映:



「世界自然遺産・知床の
温暖化対策に学ぶ」



3 講演:「温暖化による動植物への影響」

講師:龍谷大学経済学部教授 増田 啓子 先生



***講師プロフィール**
法政大学大学院人文科学研究科修士課程終了
文学博士
専門分野 気候学、環境学、地理学

***一言コメント**
趣味はテニスやスキー、山歩きや
夏の海でシュノーケルしたり
アウトドアが好きです。
また、趣味と研究をかねた花や
紅葉を観て歩くことも大好きです。

4 質疑応答

5 閉会挨拶:京都商工会議所女性会
会長 西尾 陽子



ごあいさつ



京都府府民生活部
男女共同参画監
長濱 英子

海外研修KYOのあけぼの会の皆様方には、日頃から、京都府の男女共同参画行政の推進はもとより、府政全般にわたり、格別のご支援とご協力を賜り心から感謝申し上げます。

昨年、皆様方は世界遺産の知床を訪問され、温暖化の現状やナショナルトラスト運動、流水と生態系、アイヌと知床の歴史等を幅広く研修され、その成果をKYOのあけぼのフェスティバルのワークショップで発表していただきました。男性も含め多くの参加者に、未来への努力として「室温調整」など、身近な取り組みの重要性を訴えていただきました。

今、社会の中で様々な課題が山積しておりますが、京都府では未来を見据えた「人づくり」事業を積極的に展開しています。京都の財産である「人」が「知恵と力」を結集し、府民の皆様が地域のために自ら行動を起こし、それを京都府が支え、さらに他の地域や団体の活動と交流・連携することで新たな活動の輪が広がっていく。そのような取り組みの連鎖によって、地域主権、住民自治が実現し、誰もがいきいきと活躍できる社会、支え合いの社会ができると考えております。

どうか皆様方には、今後とも、地域社会のリーダーとして、国内外の交流や女性団体相互のネットワークづくりなどの活動を進めていただき、京都府の男女共同参画社会づくりに向け、より一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



春の総会・研修会の様子



葉桜の緑が眩しい京大キャンパスに連なる京大会館において37名の出席を得て開催。

20年度事業及び決算報告、21年度事業計画及び予算についてご審議いただきました。

続いて京大時計台記念館のなかの「レストラン・ラ・トゥール」でお食事。交流を深めました。

午後は京都大学副学長大西珠枝先生のご講演「男女共同参画推進～次のステップにむけて～」を聴く。世界に並ぶ最高学府において、女性研究者に対するアクションプランが策定され、社会に貢献する人材の育成の実現に向けてスタートしたとのお話は興味深く、理解を深め解散しました。



世界自然遺産 知床の温暖化対策に学ぶ



ナショナル・トラスト運動

ナショナル・トラスト運動というのは、100年以上前、産業革命がすすんだイギリスで始まった市民による環境保護活動を言います。市民に寄付を募り、守るべき自然の土地を買い取り、かけがえのない地球環境を都市化や無謀な開発から守り、貴重な自然環境や歴史的建造物を後世に引き継いでいこうとするものです。

工業化の波は、はげしい勢いで自然を破壊し始めたので、牧師や市民たちが、「一人の1万ポンドより、1万人の1ポンド」を合言葉に運動を起し、絵本「ピーターラビット」の生みの親・ビアトリクス・ポターは湖水地方の美しい自然を保全にゆだねました。

日本では、1964年の東京オリンピックの年、鎌倉の鶴岡八幡宮「御谷(おやつ)の森」の保全に市民と作家の大仏次郎さんが立ち上がります。埼玉県の狭山丘陵にある「トトロの森」も運動に取り組んでいます。



しれとこ100平方メートル運動

知床は1964年に国立公園指定、1971年には「知床旅情」が大ヒットし、観光ブームが起り、さらにこの頃、「日本列島改造論」による土地投機ブームで、開拓のため入植したものの農業に適さない土地を離れ、原野化した跡地が不動産業者らによって買収され始めた。国立公園内の自然を守るため住民と地元・斜里町が立ち上がりました。

「知床で夢を買いませんか」をキャッチフレーズに一口8000円、一区画100㎡の「心の地主」になってくださいと寄付を募る。道内外から申込み、なんと最初の参加者は、新婚旅行中の舞鶴市のご夫婦とか。町は1997年に、4万9千人の参加者の名前を「運動ハウス」に刻み永遠に保存しました。

現在「100平方メートル運動の森・トラスト」を展開中。「自然生態系の再生」を新目標とし、森をつくり、シマフクロウなどの野生の生き物を再び迎え入れることを目指しています。



「花の利尻・礼文島と知床の旅」

平成21年6月7日～10日 参加者15名



知床五湖

流氷トラスト運動

講演「世界遺産知床と環境問題」

知床グランドホテル社長・オホーツク圏観光連盟会長桑島繁行様に、毎年、真冬にやって来るオホーツク海の流氷の北海道にもたらす効果について講演をおきしました。

「オホーツク流氷トラスト運動」はオホーツク圏観光連盟と網走支庁で始まる。「宿泊施設における冬季の室温調整」運動に取り組まれ、暖房温度を1度から2度上げ、08年にはテニスコート38面分の流氷が溶解から守られ、CO₂の排出削減に成果が現れているということです。

流氷と食物連鎖と生態系

流氷の生まれる場所はシベリア大陸の大河アムール川河口付近。カムチャッカ半島と千島列島、そして北海道に囲まれたオホーツク海は、水深が浅く、アムール川から大量の淡水が流れ込むために塩分が少ないので凍りやすく、シベリアからの寒気が急速に海を冷やすので流氷ができます。

その流氷はプランクトンを運び、それを餌にするスケソウダラや貝が増え、さらにそれらを餌とするサケ、またその魚を食べるアザラシやオオワシ・オジロワシ等が集まります。サケは知床の川をのぼって産卵をし、ヒグマがさらにこれを餌とします。このように海と川と陸の生物のかかわりあいが見られる生態系が知床には残っているのです。

世界遺産に登録された理由

- ①流氷と動植物が食物連鎖でつながっている「生態系」があること。
- ②シマフクロウやトドなどの絶滅の恐れがある生物が見られること。の二つでした。
しかし、サケマスが自由に移動できるために、川の砂防ダムをなくし、魚道をつくれという条件がつけられていました。

アイヌと知床の歴史

8000年前の縄文時代の遺跡⇒6世紀頃からオホーツク文化⇒トビニタイ文化⇒アイヌ文化

北方のサハリンから渡ってきて、オホーツク沿岸に住みつき、クジラなどを取る漁を中心にした暮らしが受け継がれていったのです。

アイヌの人たちは江戸時代になって松前藩が漁場を開拓するために知床にはいつてきて、アイヌの人たちを労働力として酷使し次第に生活が脅かされるようになって行きますが、豊かな海の幸、山の幸を利用し、農耕を中心とした生活をして、自然の恵みを受け、「共存」していたアイヌの人々の生活に学ぶことも大切だと思いました。

私たちの温暖化対策

- ①「地産地消」
- ②冷暖房温度を控え目にしましょう。

